

三浦半島植物雑記 (その4)

大谷 茂*

Miscellaneous Notes on Plants in Miura Peninsula, Japan (4)

Shigeru OHTANI*

(with 2 Plates)

この報告は本誌前号 (1962) にひきつづいての発表である。三浦半島 (鎌倉を含めて) に新たに発見されたもの (A) と、産地として新たに追加する (B) ものを報告する。いずれも三浦半島植物誌 (1950) に増補さるべきものである。この報告の記載は著者が標本ならびに現地の観察実験にもとずいたものである。項目中 *印のあるものは神奈川県植物誌 (1958) に追加すべきものである。また**印は神奈川県植物誌に産地の追加を示すものである。すべて標本は本館に保管してある。

本誌前号に発表したものに対し、初山泰一氏並に松山庫三氏から貴重な資料を提供されたのでここに深く感謝し概要を報告する。(51) エゾヤマカモジグサとヤマカモジグサは結局小穂の有毛、無毛で区別するより他仕方がない。いろいろの点で両者は連絡してしまう。三浦のものは従ってヤマカモジグサでよいと思う。松山氏のいうには長者ヶ崎に満州のヒロハヤマカモジグサに近い型があるとのことである。(64) アコウグンバイは田浦の記録がある。(66) ユリワサビを初山氏は田浦で採取し、しばらく栽培したことがある。著者は昭和38年1月19日、田浦温泉谷戸の奥地でこれを確認した。(74) キバナアキギリは鎌倉の十二所にも自生していると初山氏はいってよこされた。(77) ツルアリドウソクを鎌倉の今泉山で採集したと初山、松山両氏からしらしてこられた。今泉不動周辺には牧野先生採集の古い頃から知られていたようだが現在もあるかどうか著者は確認していない。(82) ハイビユは初山氏によると鎌倉駅線路上に出たり消えたりしているとのことである。本種に限らず帰化植物は今年発生したからとて毎年必ずしも存在するわけのものではなく消長するものである。

この報告に際して、H. K. Airy Shaw が英訳した A. L. Vredenski の *Allium* 属に関する文献を貸与くださった水島正美博士、絶えず助言をうけた鈴木重隆氏、また標本を提供された山田友久、石渡宏、西山清治、間瀬美保子の諸氏に深甚の謝意を表す。

各項目の番号は本誌前号 (1962) につづくものである。

A. この項にあげたものは三浦半島に新たに発見されたもので三浦半島植物誌に増補すべきものである。

85.** くさそてつ

根茎は直立。匍匐枝をだす。葉は倒皮針形で下部は次第にせまくなる。羽片は羽状に深裂し、その裂片は全縁。葉柄に、まばらに鱗片あるほか、その他のところには全くない。孢子葉の羽片は一平面にならぶ。

産地 横須賀市、田浦、温泉谷戸

採集者 大谷 茂

採集日 昭和37年6月24日

本種は温帯から亜寒帯にかけて広く分布しているもので、本県にも諸地方に生ずることを報告(神奈川県植物誌, 1958)したが三浦半島産としては、この発表が始めである。勿論以前から鎌倉には知られていたが、これは恐らく栽培品からか、または何等かの機会に逸出されたものと解していた。ところが上記のところは逸出とはおもわれぬ自生状態を示している。はたして植林の際、杉の苗木についてきたものであろうか。上記の環境といい、また付近にコタニワタリの群生していることなどから考えあわせて自生と信ずるものである。

86. あいあすかいので

葉柄ならびに葉軸下部の鱗片は辺縁に疎ではあるが毛状の突起がみられる。葉柄下部の鱗片は中央部が濃い栗色の縞となっている。sorus は辺縁に寄ってつく。

産地 横須賀市, 田浦, 温泉谷戸

採集者 大谷 茂

採集日 昭和37年6月24日

本種は三浦半島植物誌には記録されていないもので、かつて本誌 No. 1 (1956) に三浦半島のシダのリストをあげた際と、神奈川県植物誌の羊歯植物部門のところに戻子二子谷を発表したのであるが、上記のところ、すなわち横須賀の同好者のいう俗称シダ谷にイノデ、アスカイノデなどともに自生していることがわかったので正式に三浦半島植物誌に追加することを報告し、あわせて二子谷に上記のところを産地として追加する。

87.* こたにわたり

単葉。大きな株のもので葉身長さ 33.5cm, 巾, 5cm, 葉柄, 19cm。鱗片は褐色で、皮針形、根茎や葉柄の基部に多くつき、葉柄の上部から中肋にまでまばらについている。葉の下部はいくらか狭くなり基部は深い心臟形で、左右に広がって明らかな耳片をつくる。sorus は隣りあった脈の分岐した上脈の後側支脈と下脈の前側支脈に向いあって別々につき、包膜もまた向いあって開く。

産地 横須賀市, 田浦, 温泉谷戸

採集者 大谷 茂

採集日 昭和38年1月19日

本種が上記のところ自生することは東京の小黒順造氏の報告(1959)によって始めて知ったものである。小黒氏は昭和24年に3株、昭和29年に2株を採取し移植している。その中、1株の生品を昭和37年12月17日寄贈されたものをみると正しく本種である。その後著者は一度確認したいとおもい横須賀植物会員に協力をもとめた。会員たる石渡宏氏は単身調査したが見当らず、温泉谷戸の支谷の地図を示して再度の調査を依頼したところ、本年1月13日ついに4株を確認した。そこで著者は1月19日該地を訪ね、くまなく調査し、10数株がわずか50m距離内に自生していることを確認したのである。自生地は谷の急斜面で、戻子シルト岩層と葉山層の境界付近の基岩上に腐葉土の薄層がかぶったところで1株づつ散点し、或は3株かたまっているのもみられた。すべて発育良好の立派なものである。本種は道了山に1株あったという報告あるも著者は確認しておらず、本地域田浦が三浦半島では勿論のこと、本県内においてもかかる群生状態は初めてのことであって新発見シダとして高く評価さるべきものである。

この田浦の温泉谷戸の奥谷は三浦半島としては豊富なシダ谷であって、イノデ類、リュウメンシダの群生を始めとして、フモトシダ、クジャクフモトシダ、フモトカグマ、オオベニシダ、オオヒメワラビ、ヒメワラビ、ミドリヒメワラビ、ヒメカナワラビ、アオホラゴケ、サクライカグマ、ノコギリシダ、クサソテツ、シケチシダ、オオバノアマクサシダ、ハコネシダ、クジャクシダ、ホソバノカナワラビ、イワガネソウ、イワガネゼンマイ、ミゾシダ、オリズルシダ等が自生している。

ただ人里近いだけに環境の変化と人工的破壊と同時に山草家の無益の採取によって消失絶滅することをおそれるのである。

88. へらおもだか

葉は皮針形で薄質、基部が漸次細くなる。枝は多くは3個ずつでる。瘦果の背面に1個の深い溝がある。

産地 三浦市, 南下浦町元屋敷, 小松ヶ池
 採集者 大谷 茂
 採集日 昭和37年9月30日

本種は湿地に生じ、よく見かけるものであるが、三浦半島植物誌(1950)に記録されていないのは不思議である。同属のサジオモダカ *Alisma Plantago-aquatica* LINN. var. *orientale* SAMUELS. は本州の北部から北海道、樺太等に産するもので、葉の形や質、瘦果の背面の溝(浅い2凹線)等の差異によって区別ができる。

89. やわらすげ

叢生する。葉は軟かい。果胞は5~6mmで、やや急に長嘴となる。

産地 横須賀市, 平作(ひらさく)
 採集者 大谷 茂
 採集日 昭和36年5月3日

本種はアワボスゲ *Carex nipponica* OHWI によく似ているものであるが、アワボスゲは稈も高く、葉も硬く、果胞が短かくて急に短嘴に終るので区別ができる。本種は平地や丘陵地に普通のスゲであるが三浦半島植物誌(1950)に報告されていない。

90. かんがれい(ホタルイ属)

稈は太くて、鋭い3稜形をなし、叢生している。花序は側生的で無柄、長楕円形で稜角のない小穂がこの地のものでは6~7個集って頭状をしている。苞は1個、稈につづいて3稜形で長さ9~10~11cm。

産地 三浦市, 南下浦町元屋敷, 小松ヶ池
 採集者 西山 清治
 採集日 昭和37年9月30日

本種は湿地や沼地に普通見られるものであるが三浦半島植物誌(1950)に未記録のものである。小松ヶ池は、ハリイ *Eleocharis pellucida* PRESL など自生し、水生、湿生植物の宝庫である。

91. ひろはのいぬのひげ(ホシクサ科)

葉は広い線形で、大きな葉は長さ14cm、巾8mm、17脈あった。総苞は明らかに頭花より短い。萼の上部には短毛がまばらにでている。

産地 三浦市, 南下浦町元屋敷, 小松ヶ池
 採集者 大谷 茂
 採集日 昭和37年9月30日

本種は湿地に普通見られるものなのに、三浦半島植物誌に記録されていない。おそらく当時の調査が不十分であったか、本種の同定ができなかったかによるものであろう。

92. あさつき

鱗茎は卵状皮針形で鱗片葉に包まれている。葉は円柱形で茎に1~2個つき、茎より短いものが多いが、同長また稍々長いものもある。茎の高さは大きいもので39cmで基部は紫色を帯びている。苞は広卵形で先は急にとがる。小梗は9mm。花は紅紫色、茎の先に密集して繖形花序にひらく、花被片は広皮針形で主脈部濃紫色、雄蕊は花被片の2/3、花柱も外にでないで潜在している。

産地 三浦市, 大乘海岸
 採集者 大谷 茂
 採集日 昭和36年6月4日

本種は上記のところ俗称, 犬がえしとぬすつとがりの両難所の中間で岩盤上に絶えず湧水のみみでる湿った場所に群生している。いつ頃からあったものか, またどうして生じたものであろうか。この地方で食用にしたこともないらしい。四国の土佐の漁民と浦賀とは深い関係があり, 土佐の人はアサツキをよく好むとも聞いているので渡航中たまたま船中からこの海岸に漂着し活着したとも考えられる。何れにしても現状は野生化している。

日本産のアサツキに *Allium Ledebourianum* RÖMAR et SCHULTES を使っているもの(例, 石井: 園芸大辞典, 世界大百科事典)があるが, A.L. は花柱が花被より長く抽出するから別種である。しかし A.L. が次の *A. Schoenoprasum* と近縁であることは両種の自然雑種が Krylov によってアルタイ地方から A.L. var. *intermedium* の名で発表されていることから明らかである。A.L. は西シベリア, 東シベリア, 極東, モンゴールの草原或は溪谷に自生するが, 日本には未記録のものである。この種は Byelaya [白ロシア] Uba と Koksna 河から記載され(原記載の意とおもう), タイプはレニングラードにある。

記載上 A.S. とちがう点は次のようである:

Allium Ledebourianum ROEMER et SCHULTES, Syst. VII (1830) 1029; Ledeb. Fl. Ross. IV (1852) 168; Krylov Fl. Zap. Sib. III (1929) 607-*A. uliginosum* LEDEB. Icones lc. Pl. Fl. Ross. I (1829) 20 t. 83 (non G. Don (1827)) 鱗茎は円筒形~長楕円体。花茎は高さ 40~80cm。葉は巾 5~10 mm。総包は花序の $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{2}{3}$ 長。花梗は大体同長, 花被の $1\frac{1}{2}$ ~ 3 倍長。花被は 7~12 mm 長, 長卵状皮針形又は皮針形, 鋭頭。花糸は花被片よりわずかに $\sim\frac{1}{3}$ 短い。花柱は花被より明らかに長く抽出する。

アサツキは前記 A.L. と共に Sect. Rhizirideum に属し, A.I. Vredenski の "The Genus *Allium* in the USSR (1935)" を H.K. Airy Show が英訳しキュー王立植物園が発行(1944)した *Herbertia* の検索表 (pp. 68~71) と記載 (p. 143) によれば *A. Schoenoprasum* LINNAEUS に該当する。同書では本種の多形性について特に強調して記載も巾が広く, 日本のアサツキ近縁のもの(エゾネギを含む)はすべて包括されると考えている。分布は Arctic, European Part (ソ連の), 東西シベリア, 極東, スカンジナビア, 中部ヨーロッパ, 西地中海地方, イラン, インドーヒマール地方, モンゴリア, 日本, 支那, ベーリング地方, 北アメリカに及び, 草原, 溪谷稀に石の多い斜面に生える。シベリアと Ocland から記載された。

本種の記載文摘要は次のようである:

Allium Schoenoprasum LINNAEUS, Sp. Pl. (1753) 301; Ledeb. Pl. Ross. IV (1852) 166 excl. syn. *A. oliganthum* KAR. et KIR.; Turck. in Bull. Soc. Nat. Mosc. XXVII 2 (1854) 119; Boiss. Fl. Or. V (1882) 250; Schmalh. Fl. II (1897) 493; Krylov Fl. Zap. Sib. III (1929) 606; Komarov Opred. Rast. Dalnevost. Kraya I (1931) 366- *A. sibiricum* L. Mant. II (1771) 562- *A. Raddeanum* REGEL in A.H.P. III 2 (1875) 155 鱗茎は長卵状楕円体~楕円状三角錐。花茎は高さ 10~60 cm。葉は巾 2~6 mm。総包は花序と同長又はやや短い。花梗は不同長で花序内部のものが長く, 花被の $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{2}$ 長であるが稀に花被と同長のものがある。花被は 7~17 mm 長, 線状皮針形, 皮針形または長卵形, 鋭頭。花糸は花被片の $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{2}$ 長。花柱は花被より抽出しない。

日本においても北海道のエゾネギをアサツキに包含する考えのものがいるようだが, アサツキは

エゾネギにくらべると花被片が広く形が大分ちがうので、北海道のものはエゾネギ *A. S. var. foliosum* REGEL として区別することがよいと思う。

93. あまな

鱗茎は長さ 1.5 cm くらいの広卵形で外皮は暗褐色をしている。葉は 2 枚、線形で長さ 15~20 cm, 巾 5~8 mm で花茎の下部に偽対生し質はやや厚いが軟かく、下面は白緑色をしている。花茎は細く約 10 cm 長のものが多い。包は 2 枚で 2 cm 長。花被片は皮針形で 2 cm 長、白色で暗紫脈が 7 本通っている。花被 6, 雄蕊 6, 子房上位で 3 室。ユリ科植物の基本的な花の構造をよく示す。

産地 横須賀市, 平作 (ひらさく)

採集者 大谷 茂

採集日 昭和 37 年 3 月 10 日

本種は三浦半島植物誌 (1950) に記録されていないが、おそらく開花期が早く、5 月にはすでに葉が枯れるので採集の時期を逸し目につかなかったためであろう。本種も三浦半島では稀産のものとなってきている。

94. ぎんらん

全体無毛。葉はせまい長楕円形。包はせまい三角形で一番大きいものでも花を越えることはない。唇弁の基が外に突出している。

産地 横須賀市, 佐原

採集者 西山 清治

採集日 昭和 36 年 5 月 3 日

三浦半島植物誌 (1950) にはササバギンラン *Cephalanthera longibracteata* BLUME が記録されているが、本種はない。ササバギンランは茎の上部や葉の下面脈上および辺縁、また子房等に短毛があるし、葉も線状皮針形で長く、包も線形で長いものは花序よりも長い。唇弁の基も鈍く短かいものである。この地区にはササバギンランの方が普通に見られるがギンランは少ない。両種とも次第に減少する傾向があるが、この種類は根からほりとらなくても上部を摘みとっただけで枯死するものであるから、こういうところに案外原因して減少するのであろう。

95.** らんようあおい

葉はホコ形で、基部両側は耳状に外方に開く。葉の両面、特に下面脈上や辺縁に短毛がある。葉柄は長い。花には小梗があり、花筒の上端が、わずかにくびれている、筒の入口の孔は小さい。

産地 鎌倉市, 散在ヶ池

採集者 大谷 茂

採集日 昭和 36 年 3 月 18 日

本種は三浦半島植物誌 (1950) に記録がないが、本地区にはむしろ本種の方が普通にみられるものである。本館附属自然教育園を中心に周辺の山地には特に多産する。Asarum 類は当地区に数種自生しているが、詳細は後の機会に報告する。

96. はいめどはぎ

茎は直立しないで、下方は伏臥して地上をはっている。葉の表面を除いて圧毛があるが枝の上方の毛は開出している。

産地 三浦市, 初声町, 長浜海岸

採集者 西山 清治

採集日 昭和 37 年 9 月 30 日

母種のメドハギは茎は直立して剛硬、圧毛があるので本種とは容易に区別のできるものである。誰でも見ていたであろうが、三浦半島植物誌には記録されていない。

97. いぬはぎ

全体に黄褐色の軟毛が密生している。小葉は長橢円形で頂小葉が最も大きい。有弁花は帯白色で、有梗、葉より長い総状花序上に密生している。

産地 三浦市, 初声町, 長浜海岸

採集者 西山 清治

採集日 昭和37年9月30日

本種は三浦半島植物誌に記録のないもので先に本誌 No. 4 (1959) に、三崎諸磯海岸や北下浦の野比、千駄ヶ崎等に自生すると触れておいたものである。ここに改めて正式に報告する。本県植物誌には横浜が産地としてあげてある。

98. つきぬきさいこ (奥山春季 1951)

1年草である。全株無毛。上部の葉は卵状、下部の葉は長卵状、いずれも穿生葉である、裏面はいくぶん帯白色をしている。大小不同の大形の包が4~5枚ある。花卉は黄色、花盤がよく発達し、子房下位、柱頭2。

産地 横須賀市, 佐野町

採集者 大谷 茂

採集日 昭和37年5月18日

本種は欧州原産のものであるが、浅井康宏氏によると、北米に帰化しているので、我国への渡来の径路は北米からはいったもののようである。佐野町の人里にどうしてはいつてきたかは知る由もないが、恐らく鳥の飼料にまじってきたものであろう。本種は始め奥山春季氏が東京五反田駅に近くの路傍で採取され(1951)、その後、和歌山県日高郡御坊町、島で芝口常楠氏採集(昭和27年5月)されたものは本種であると津山尚先生が報告されている(1955)。本県においては浅井康宏氏が藤沢で採取されたことが本県植物誌に記録されている。この横須賀は本県においては第二の産地というわけであるが、まだ全国的にみて稀産のもので野生化までにはいたっていないようである。この横須賀でも1株見ただけである。

99** あめりかふうろ

本標本では茎の高さ、30cmで短毛が密生している。葉は5~6裂し各裂片はさらに浅裂し、両面に毛がある。花は淡紅色で1~4cm長の柄に繖房状につく。

産地 鎌倉市, 十二所

採集者 間瀬美保子

採集日 昭和37年5月13日

本種は北米原産のもので、熊本周辺では1948年頃から散見され、最近では各所に野生化し群落をつくっているということである。本県植物誌には横浜、大磯、藤沢の報告があるが、今度上記のところの畑地に完全に帰化していることがわかった。このところのものは小林純子氏も確認(May 20, 1962)されている。

100.** ひめおどりこそう

茎の基部は細くて多少伏臥し、分枝するが上方は直立している。高さは本標品では大きなもので30cmを越えている。葉は有柄、円心形で有毛、長さ、巾ともに2cm、辺縁に歯牙がある。花葉は多少赤紫色をおびている。

産地 横須賀市, 久里浜, 千駄ヶ崎

採集者 大谷 茂

採集日 昭和37年5月6日

本種はヨーロッパ、小アジアの原産で、本県植物誌に産地の報告がないが、著者は大磯で採取し

たことがある。しかも群落を形成していたことをおぼえている。あまり見かけないが、ある場所には相当密集して生ずるものである。

101.** くわもどき

一年草。茎は 1~2m に達し粗毛がある。葉は長柄，対生，裏面は緑白色，掌状に 3~5 裂し，裂片の縁に鋸歯がある，表裏とも粗渋でザラつく。雄花は 20~30 花が頭状に集まって糸状の柄で下垂し 15~20 cm の穂状にならぶ。雌花は花序の下方について数は少ない。

産地 横須賀市，佐野町

採集者 大谷 茂

採集日 昭和 37 年 9 月 11 日

本種は一見壮大なブタクサをおもわせるものである。どうして突然発生したか，その経路は不明であるが，三浦半島では始めてのものである。著者は 3 年前，横浜に繁茂している本種を見たことがある。本種は北米原産の帰化植物である。

102.** はきだめぎく

茎は基部からよく分枝している。全株に白毛が密生してる。葉は対生，短柄，卵形，表裏とも有毛で辺縁に鋸歯がある。頭状花は小さく。花柄に腺毛がある。管状花の冠毛の先は芒状で，舌状花は白色で冠毛がある。ふちの果実の内面に毛がある。

産地 横須賀市，久里浜

採集者 大谷 茂

採集日 昭和 36 年 6 月 18 日

本種は熱帯アメリカの原産であるが，広く世界に人為的に散布され帰化したものである。また多くは市街地に出現するものである。本種の学名を普通 *Galinsoga parviflora* CAVANILLES を使っているが，それは誤りで，これはコゴメギクのことである。コゴメギクはハキダメギクによく似てはいるが，コゴメギクは管状花の冠毛の先が，芒状にならないし，舌状花に冠毛もなく，ふちの果実の毛が上部だけにあるもので，明らかに異なるものである。本県内にもよく注意したらコゴメグサもでてくるかと思うが，今のところ出あったことがない。

B. この項にあげたものは新産地として三浦半島植物誌に追加すべきものである。

103. いぬすぎな 鎌倉市，七里ヶ浜，霊光寺附近. 間瀬美保子，Jun. 5, 1960.

104. いぬとくさ 鎌倉市，七里ヶ浜. 間瀬美保子，Jun. 5, 1960.

105.** おうれんしだ 鎌倉市，葛原ヶ丘. 石渡 宏，Aug. 25, 1960.

106.** ふもとかくま 鎌倉市，天園. 石渡 宏，Dec. 18, 1960.

107.** おおばのあまくさしだ 横須賀市，田浦，温泉谷戸. 大谷 茂，Nov. 11, 1962.

本種は三浦半島においては下山川の上流にあたる木古庭不動滝の谷と馬の脊谷の水源地附近に知られていたもので，上記の地区では始めて見たものである。田浦大作谷戸から温泉谷戸に下る山道よりわずか上方の斜面に 1 株があった。ただ溪側より，はるか高処に生じているのが変っている。附近にはオオベニシダが多産する。

108.** しけちしだ 鎌倉市，天園. 石渡 宏，Dec. 18, 1960.

本種は三浦半島植物誌 (1950) に記録がなかったので著者は本誌 No. 1, 1956 に神武寺産を発表して以来，田浦地区に多産することがわかり (本館雑報，No. 7, 1960)。今回鎌倉にも自生していることが明らかとなった。田浦地区では *Cornopteris decurrenti-alata* forma *latifrons* H. Ito ヒロハシケチシダの型も混生して見られる。

109. のこぎりしだ 横須賀市，田浦，温泉谷戸，大谷 茂，Jun. 24, 1962.

110.** おおべにしだ 横須賀市, 馬堀本館自然教育園. 大谷 茂, Jun. 2, 1961. 同市, 田浦, 温泉谷戸. 大谷 茂, Nov. 11, 1962. 同市, 大楠山→子安, 前田川支谷. 山田友久, Jan. 27, 1963.

111.** みどりひめわらび 横須賀市, 田浦, 温泉谷戸. 大谷 茂, Jun. 24, 1962.

112. まやらん 鎌倉市, 散在ヶ池. 大谷 茂, Mar. 18, 1961.

本品は果実時のものである。根茎は長く 21 cm で、これに長さ 10 mm 巾 5 mm 大の菌根 3 個がついている。花茎 18 cm。花序 3 花の中、2 花が結実している。本種は神奈川県植物誌に鎌倉があがっているが著者は始めて確認したのである。

113. あこうぐんばい 横須賀市, 衣笠. 西山清治, Mar. 18, 1962.

114. ふゆいちご 横須賀市, 田浦. 大谷 茂, Dec. 20, 1960.

本種は三浦半島地区では、神武寺, 木古庭滝不動で確認している。

115. たにじゃこうそう 横須賀市, 田浦, 温泉谷戸. 大谷 茂, Dec. 20, 1960.

上記のところで本種採集のときはすでに花後のものであった。従来、神武寺, 二子山, 大楠山の谷に確認している。花期は 9 月から 10 月頃である。

R é s u m é

This report shows additional facts learned from herbarium specimens and observations in the field during 1962-1963, that should be added to "Florula Miurensis (1950)" by Masujima and Ishiwata, and also to "Florula Kanagawensis (1958)". The latter is indicated by * (new plants added to the florula) and ** (new found localities). All specimens mentioned below are kept in the Herbarium of the Yokosuka City Museum. The accurate localities and collectors are shown in the round brackets. The numbers of items are continued from the previous article.

Part A; The following plants have been newly found in the area of Miura peninsula.

85** *Mattuccia Struthiopteris* TODARO (Onsen-yato, Taura, Yokosuka; Shigeru Ohtani)

86 *Polystichum polyblepharum* (ROEM.) PRESL var. *intermedium* (TAGAWA) KURATA (Onsen-yato, Taura, Yokosuka; Shigeru Ohtani)

87* *Phyllitis Scolopendrium* (L) NEWM. (Onsen-yato, Taura, Yokosuka; Shigeru Ohtani)

88 *Alisma canaliculatum* A. BR. et BOUCHÉ (Komatsu-ga-ike, Minami-Shitaura-cho, Miura-shi; Shigeru Ohtani)

89 *Carex transversa* BOOTT (Hirasaku, Yokosuka; Shigeru Ohtani)

90 *Scirpus Preslii* DIETRICH (Komatsu-ga-ike, Minami-Shitaura, Miura-shi; Seiji Nishiyama)

91 *Eriocaulon robustius* (MAXIM.) MAKINO (Komatsu-ga-ike, Minami-Shitaura, Miura-shi; Seiji Nishiyama)

92** *Allium Schoenoprasum* LINN. (Seashore at Ohnori, Miura-shi; Shigeru Ohtani) This species makes a pure community along sunny wet slope near seashore. It seems naturalized by any way.

93 *Tulipa edulis* (MIQ.) BAKER (Hirasaku, Yokosuka; Shigeru Ohtani)

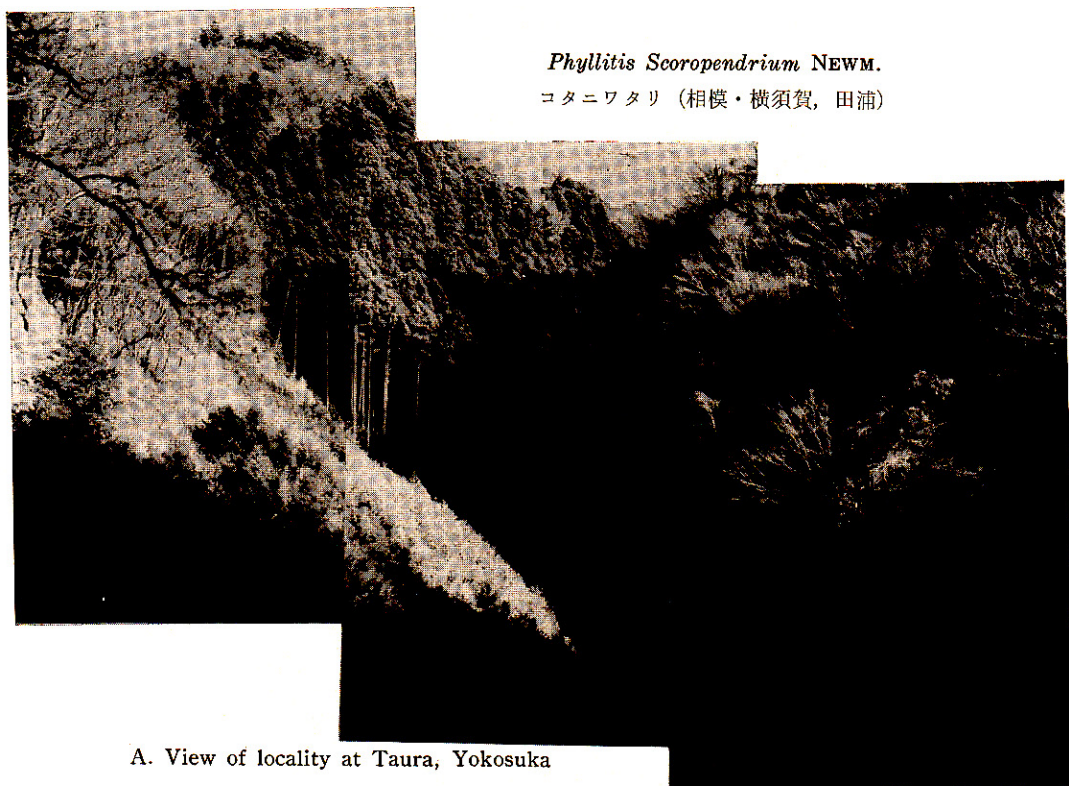
94 *Cephalanthera erecta* (THUNB.) BLUME (Sawara, Yokosuka; Seiji Nishiyama)

95 *Asarum Blumei* DUCHART. (Sanza-ga-ike, Kamakura; Shigeru Ohtani)

96 *Lespedeza cuneata* (Du Mont de COURSET) G.DON var. *serpens* (NAKAI) OHWI (seashore)

Phyllitis Scoropendrium NEWM.

コタニワタリ (相模・横須賀, 田浦)



A. View of locality at Taura, Yokosuka



B. Whole



C. Natural Habitat



A. *Allium Schoenoprasum* LINN. アサツキ (相模・三浦, 大乘)



B. *A. Schoenoprasum* L.



C. *A. Schoenoprasum*. L.var. *foliosum* REGEL
(Otaru-shi, Hokkaido.)

Sowing a flower (right) and a perianth segment (left) ♀ both B and C

at Nahama, Miura-shi; Seiji Nishiyama)

- 97 *Lespedeza tomentosa* (THUNB.) SIEBOLD (seashore at Nahama, Miura-shi; Seiji Nishiyama)
 98***Bupleurum rotundifolium* LINNAEUS (Sano-machi, Yokosuka; Shigeru Ohtani)
 99***Geranium carolinianum* LINNAEUS (Jūnisō, Kamakura; Mihoko Mase)
 100***Lamium purpureum* LINN. (Senda-ga-saki, Kurihama, Yokosuka; Shigeru Ohtani)
 101***Ambrosia trifida* LINNAEUS (Sano-machi, Yokosuka; Shigeru Ohtani)
 102***Galinsoga ciliata* (RAF.) BLAKE (Kurihama, Yokosuka; Shigeru Ohtani)

Part B: The following plants have been newly found in the Miura peninsula and should be added to the florula.

- 103 *Equisetum palustre* LINN. (Shichiri-ga-hama, Kamakura; Mihoko Mase)
 104 *Equisetum ramosissimum* DESF. var. *japonicum* MILDE (Shichiri-ga-hama, Kamakura; Mihoko Mase)
 105***Dennstaedtia Wilfordii* (MOORE) KOIDZ. (Kuzuhara-ga-oka, Kamakura; Hiroshi Ishiwata)
 106***Microlepia pseudo-strigosa* MAKINO, (Ten'en, Kamakura; Hiroshi Ishiwata)
 107***Pteris inaequalis* BAKER var. *simplicior* TAGAWA (Onsen-yato, Taura, Yokosuka; Shigeru Ohtani)
 108***Cornopteris decurrenti-alata* (HOOK.) NAKAI (Ten'en, Kamakura; Hiroshi Ishiwata)
 109 *Diplazium Wichuriae* (METT.) DIELS (Onsen-yato, Taura, Yokosuka; Shigeru Ohtani)
 110***Dryopteris hondoensis* KOIDZ. (Mabori, Yokosuka; Shigeru Ohtani)
 111***Thelypteris oligophlebia* (BAK.) CHING var. *subtripinnata* (TAGAWA) H. ITO (Onsen-yato, Taura, Yokosuka; Shigeru Ohtani)
 112 *Cymbidium nipponicum* (FR. et SAV.) MAKINO (Sanza-ga-ike, Kamakura; Shigeru Ohtani)
 113 *Lepidium Draba* LINN. (Kinugasa, Yokosuka; Seiji Nishiyama)
 114 *Rubus Buergeri* MIQ. (Tarua, Yokosuka; Shigeru Ohtani)
 115 *Chelonopsis longipes* MAKINO (Taura, Yokosuka; Shigeru Ohtani)

文 献

- 北村 四郎 1962 コゴメギクとハキダメギク. 植物分類地理, 30周年記念号, 20: 179.
 小林 純子 1963 鎌倉に現れた 2~3 の帰化植物について. 野草, 29, (271): 8~9.
 小黑 順造 1959 三浦半島にコタニワタリ, ホウライシダ, ヒカゲノカズラを産す. 日本シダの会々報, 42: 4~5.
 神奈川県教育委員会 1958 神奈川県植物誌. 横浜.
 宗定哲二外3名 1960 アメリカフウロ剖見. 植物研究雑誌, 35 (6): 27~30.
 増崎弘行・石渡治一 1950 三浦半島植物誌, 横須賀市史 6. 横須賀.
 行方富太郎・倉田 悟 1961 日本産シダ植物総目録. シダの採集と培養, 241~344.
 奥山 春季 1951 ツキヌキサイコ. 植物研究雑誌, 26 (11):349.
 大谷 茂 1956 オウレンシダ, フモトカグマ, オオベニシダ. 横須賀市博物館自然科学研究報告, 1:14~15,17
 大谷 茂 1960 クワモドキ, ミドリヒメワラビ. 横須賀市博物館自然科学研究報告, 5:18, 33.
 大谷 茂 1960 十三峠周辺採集記. 横須賀市博物館雑報, 7:23.
 大谷 茂 1962 アコウグンバイ. 横須賀市博物館自然科学研究報告, 7:47.
 津山 尚 1955 ツキヌキサイコの新産地. 植物研究雑誌, 30, (7):22.
 A.L. VREDENSKI 1935 The Genus *Allium* in the USSR (Translated into English by H.K. AIRY SHAW 1944.-Kew).